

令和2年度(2020年度)学力向上推進事業

「子どもの望ましい生活習慣・学習習慣定着研修事業」事業報告

子どもと保護者の意識の向上を図り、子どもの望ましい生活習慣や学習習慣の定着に向けた取組を促進するため、七飯町PTA連合会と共催で実施しました。

- ◆主 催：北海道教育庁渡島教育局、七飯町PTA連合会
- ◆日 時：令和2年(2020年)11月4日(水)18:30~20:30
- ◆会 場：七飯町文化センター・スターホール
- ◆参加者：50名(学校運営協議会委員、保護者、教職員等)

情報提供

【子どもたちをネットトラブルから守るために】

講 師：渡島教育局教育支援課社会教育指導班社会教育主事 南部 晃 宏

まず、学校種別のスマートフォン所持率に触れ、子どもたちを取り巻くインターネットトラブルの現状について説明しました。



次に、様々あるインターネットトラブルについて、特に子どもたちにとって緊急性が高い「福祉犯被害」と「影響が長期にわたるトラブル」について注意を呼びかけました。「福祉犯被害」については、この6年間で1.5倍に増加していること、全体の約4割はTwitterを介しているなど、一般的なアプリやサイトの使い方に注意が必要であることを紹介しました。また、「影響が長期にわたるトラブル」については、「炎上」について取り上げました。一時的な被害よりも、個人情報が発見された場合の将来的な悪影響が心配されるため、「公開された情報の回収が困難」というインターネットの特性への理解が重要であると指摘しました。

最後に、子どもが効果的にインターネットの知識や利用方法を身に付けていくために、フィルタリングやペアレンタルコントロールを活用し、段階的に利用の範囲を広げていく方法を紹介しました。また、身近にいる大人は子どもに対して、「トラブルに遭わないか心配している」「何かあったらすぐに相談してほしい」という姿勢を示すことの重要性について訴えました。

講演会

【子どもが幸せになる学校コミュニティ】

講 師：一般社団法人とちぎ市民協働研究会代表理事 廣瀬 隆 人 氏

まず、小学校では今年度から、中学校では来年度から全面実施となる学習指導要領の「社会に開かれた教育課程」に触れ、「自分さえ良ければ良い」「誰かがなんとかしてくれる」という思考ではなく、世のため人のために自分に何ができるのかという人づくりが求められていることについて指摘しました。併せて、各学校や地域において、学校運営協議会が設置され、地域学校協働活動が展開されていることのねらいである、地域づくりと担い手育成の重要性について解説しました。



また、体験活動が十分でない社会で生きて働く力は形成できないことや、学校できめ細かく生活指導をする意味について説明しました。そして、保護者には、子どもの体験の質と量を増やし、振り返りを習慣化することで、未来を切り開く人材を育成するよう求めました。加えて、学校の教育意図を理解し、例えば「水をこぼしたら自分でぞうきんを探して拭く。その後、洗って絞り、広げて干す」などの基本的なことを、家庭においても丁寧に指導することの重要性を訴えました。

最後に、社会全体に必要な人材を育てるというPTAの存在意義に触れ、「クラスの子どもみんなが幸せにならないと自分の子どもも幸せにならない」との考え方に立ち、保護者同士のつながりの大切さについて呼びかけました。